全國勞働組合同盟結成大會

綱領・主張・規約・運動方針草案

全國勞働組合同盟運動方針書草案

組立ての概要

一、はしがき—本運動方針の眼目に就いて
二、世界資本主義の大勢—所謂相對的安定の本質に就いて
三、日本資本主義の諸情勢—金融資本の躍進とこれに附隨する諸問題
四、日本勞働組合運動の情勢(その一)—日本勞働組合運動の重要性
五、日本勞働組合運動の情勢(その二)—日本勞働組合の最近の傾向とその批判
六、我等の新同盟体の地位と使命—合同の意義及び現段階に即する大衆的闘爭組織に就いて
七、我等の新同盟体の當面の諸運動とその方針
　一、組織運動の方針
　二、教育運動の方針
　三、爭議闘爭の方針
　四、調査に關する方針
　五、政治運動の方針
　六、國際的諸運動に關する方針
八、時局問題に對する新同盟の闘爭方針
　一、産業合理化反對運動
　二、失業反對運動
　三、勞働立法獲得運動
　四、勞働組合戰線統一運動
　五、農民運動との提携
九、結論—將來に對する若干の展望

一、はしがき
—この運動方針の眼目について—

昭和五年六月一日！日本勞働組合同盟と勞働組合全國同盟の合同を中軸とし、之に合流する北海勞働總同盟其他の地方的團體を加へて、茲に新たなる全國的同盟體たる「全國勞働組合同盟」は結成された。

我等の新同盟體の戰線は今日本に於ける一道三府十六縣に亘り、その組織網に金属、機械器具製造紡績製糸、電気瓦斯、運輸交通、通信、鑛業、土木建築、化學、木材、其他雜種工業の全生産工場、鑛山及び街頭の職場に擴大し、全日本の勞働階級の生活と闘爭のある所、そこには我等の戰闘旗に勞働大衆の頭上高く掲げられたのだ。

由來、日本勞働組合同盟と勞働組合全國同盟の兩同盟體に甞ては日本勞働總同盟の主動的部分を占め、その異敢なる闘爭は過去の總同盟をしてよくその戰闘的傳統を保たしめ、日本勞働運動の中堅たらしめた。其後總同盟官僚幹部の急速なる階級的墮落と之に伴ふ不可避的なる分裂の過程に於て總同盟の主動的部分に、日本勞働組合同盟及び勞働組合全國同盟を結成し、以て過去の總同盟の戰闘的傳統を保持し、常々新勢力を糾合して最も有効なる闘爭を遂行し來つた。また、今その大合同に合流せる北海勞働總同盟其他の地方的團體の何れも、分散せる我國勞働組合戰線の一部隊として、各地方に於ける大衆的闘爭を指導し、同時に、右右兩翼の分裂主義を排して一意國内勞働組合戰線の統一のために努力し來つた。故に我等の「全國勞働組合同盟」の結成は、從來の行詰れる我國勞働組合戰線の統一運動に對して現實に一丸面擔の効果を擧げ將來に於ける勞働組合の全合同への推車としての役割を努めると同時に、この新同盟體の出現自體が既に闘爭力の飛躍的なる擴大强化を意味するものである。されば我等の新同盟體の將に産まれんとする闘爭は、いよ〳〵激化し行く資本の攻勢に對抗して勞働大衆の生存權を擁護し向上せしめる上にも、また、その組織の擴大强化を促進せしめる上にも最も重要性を有するものである。

よつて我等は茲に闘爭の第一丸を踏み出すに當り、我等の過去の闘爭の眞正なる批判と客觀的情勢の總確なる認識に立脚し、而して勞働大衆の生長性に即しつゝ之を階級的に指導し訓練し、以て勞働大衆の日常利害を代表する戰闘的同盟體たるを分を發揮するために我等の運動方針を明示せんとするものである。

我等は別に綱領、主張及び創立大會宣言によつて、我等の運動の究極の目的、當面の目標現實の立場等を宣明した。だがかゝる綱領、主張及び宣言を現實に活動せしめ、よく勞働大衆の血となり肉となるものは、之等を一貫「統一する運動方針の確立にかゝつて居る。

二、世界資本主義の大勢
—所謂「相對的安定」の本質に就て

一、資本主義的矛盾の擴大

二十世紀に入りて加速度的に成長し來る世界資本主義に歐洲大戰によつてその内的矛盾を現實に暴露した。即ち、各資本主義國内に於ける勞資の階級對立の激化、各植民地に於ける被抑壓民族の反抗運動の生鐵化、各資本主義國家間に於ける對立の生鐵化を、主たる要因とする矛盾の規發—その端的表現としての世界大戰となつた。だが世界大戰は資本主義の内的矛盾を解決したかつた。否、世界資本主義はこの未戰を契機として一段々々その矛盾を增大し、世界的不安と動搖の深き間たき時代、即ち所謂相對的安定の新しき段階に這入つた。

大戰によつてその巨大なる生産力を破壞され、社會的瀕死の狀態に陷れる世界資本主義は、次いで世界的恐慌の襲來ロシヤ革命の生誕とする世界革命運動の擡頭によつてその根底を搖がされた。だが世界ブルジョアジーは必死の努力を以て無産階級解放運動及び殖民地民族運動に對して白色恐怖と徹底的彈壓を加へ、同時に無産階級の犠牲による産業合理化の强行によつて破壞されたる生産力の恢復と擴大に成功し、辛うじて一時的安定を喜ち得た。かくて彼等世界ブルジョアジーは今やこの一時的安定を永續化せんとして、國内的に或は國際的に、月ゆる努力を試みつゝある。即ち、國内的には、從來の反動政策の鬼畜性を蔽ふに自由主義の假面を持ち來り、實質的に産業合理化の最後の仕上げを敢行せんとする如き、また、國際的には、世界資本主義の統制乃至は組織化を試み國際的協調の假面によつて帝國主義戰爭の危機を粉色せんとする如きは、この一時的安定期に於ける一段的傾向である。殊に於ける英國勞働黨内閣の出現、米國フーバーの執政、我國に於ける濟日内閣の出現等に代表せられる一聯の國内政局の推移、更にまた、ヤング賠償案、軍備縮小會議の一時的成功、ブリアンのヨーロッパ聯邦の提唱等に見られる國際協調の氣運、これらに一時的安定の一段的傾向を表徴するものである。

然しこの安定の淺根は同時に世界資本主義に内在する矛盾が可成強化し擴大しつゝあることの世界プルジョアジーの努力は、この一時的安定を永續化する代りに、寧ろ益々深き矛盾を孕み産れ、世界資本主義を新たなる危機に導きつゝある。何となれば、生産力の擴大、巨大なる資本の蓄積に必然的にブルジョアジーを駆つて商品市場と投資市場の獲得のための闘爭に狂奔せしめ、第二次世界戰爭の危機を醸成するに至る。また、各國内産階級及び殖民地民族に極度の搾取と壓迫に堪へかねて決起したる闘爭に過酷するからである。

二、戰後第三期の諸傾向